

石薬師東古墳群・石薬師東遺跡
(第14次) 発掘調査報告

2002年3月

三重県埋蔵文化財センター

序

過去13次にわたって発掘調査が行われた石薬師東古墳群・石薬師東遺跡では、60基を越える古墳の周溝の跡が確認され、多くの遺物が出土しています。特に馬形埴輪はその頭部の表現が全国的にも例を見ない飾り馬として注目され、文化庁主催の新発見考古速報展「発掘された日本列島98」に出展され、パンフレットの表紙を飾るなど、全国的にも非常に注目される遺跡であります。

今回の発掘調査は、中勢防災拠点自家発電機施設建設工事に伴い、現状保存が困難な部分について行われたものであります。現在に生きる人々の生活の安全のためには防災拠点施設を設ける必要はありますが、このような貴重な遺跡が失われていくこともまた忘れてはならないことでもあります。記録保存という形で残されたこの報告書が、地域の歴史研究の一助となるとともに、文化財保護の啓発に役立てれば幸いです。

最後になりましたが、地元の方々の他、三重県地域振興部消防防災課、三重県消防学校、鈴鹿市教育委員会、鈴鹿市考古博物館などの関係各位には発掘調査に際しましてご協力賜りました。厚く感謝申し上げます。

平成14年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 桂川 哲

例 言

- 1 本書は、三重県鈴鹿市石薬師町字寺東に所在する石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第14次)発掘調査報告書である。
- 2 調査は、三重県教育委員会が三重県地域振興部より執行委任を受けて、平成13年度中勢防災拠点自家発電機施設建設工事に伴って実施したものである。
- 3 調査は以下の体制で行った。

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課 技師 水谷 豊
発掘作業担当 (株)大野工務店
- 4 調査にあたっては、三重県地域振興部消防防災課、三重県消防学校の協力を得た。
- 5 当報告書の作成業務は三重県埋蔵文化財センター調査第一課及び資料普及グループが行った。写真撮影・本文の執筆・編集については水谷が行った。
- 6 本書で示す方位は、国土調査法第VI座標系を基準とする座標北を用いた。真北は西偏 0° 18′、磁北は西偏 6° 40′ である。(平成6年)
- 7 本書で報告した記録は三重県埋蔵文化財センターで保管している。
- 8 スキャニングによるデータ取り込みのため若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本 文 目 次

I 前言	1
II 位置と環境	2
III 調査の成果	3
IV 結語	3

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 消防学校内遺構配置図	2
第3図 調査区位置図	3
第4図 調査区位置図	4
第5図 調査区平面図・土層断面図	4

図 版 目 次

図版1 調査区全景(西から)／近代以降建物基礎(東から)	5
------------------------------	---

I 前 言

1 調査の契機

石薬師東古墳群・石薬師東遺跡は平成5年度～8年度にかけて三重県消防学校施設・設備整備事業計画に伴い、三重県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った。その結果、46基の古墳や奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物などが発見され、各種須恵器や円筒埴輪、人物・家形・動物などの形象埴輪が多量に見つかり、県下有数の古墳群であることが確認された。周辺においても県埋蔵文化財センターや鈴鹿市教育委員会の発掘調査が行われており、古墳が周辺にも広がっていることが明らかになっている。

平成13年度の事業照会に対し、三重県地域振興部消防防災課から、消防学校内で中勢防災拠点自家発電施設建設工事計画の回答があった。取り扱いについて保護に努めるよう協議を重ねた結果、現状保存が困難な230㎡について今回の発掘調査を実施することとなった。

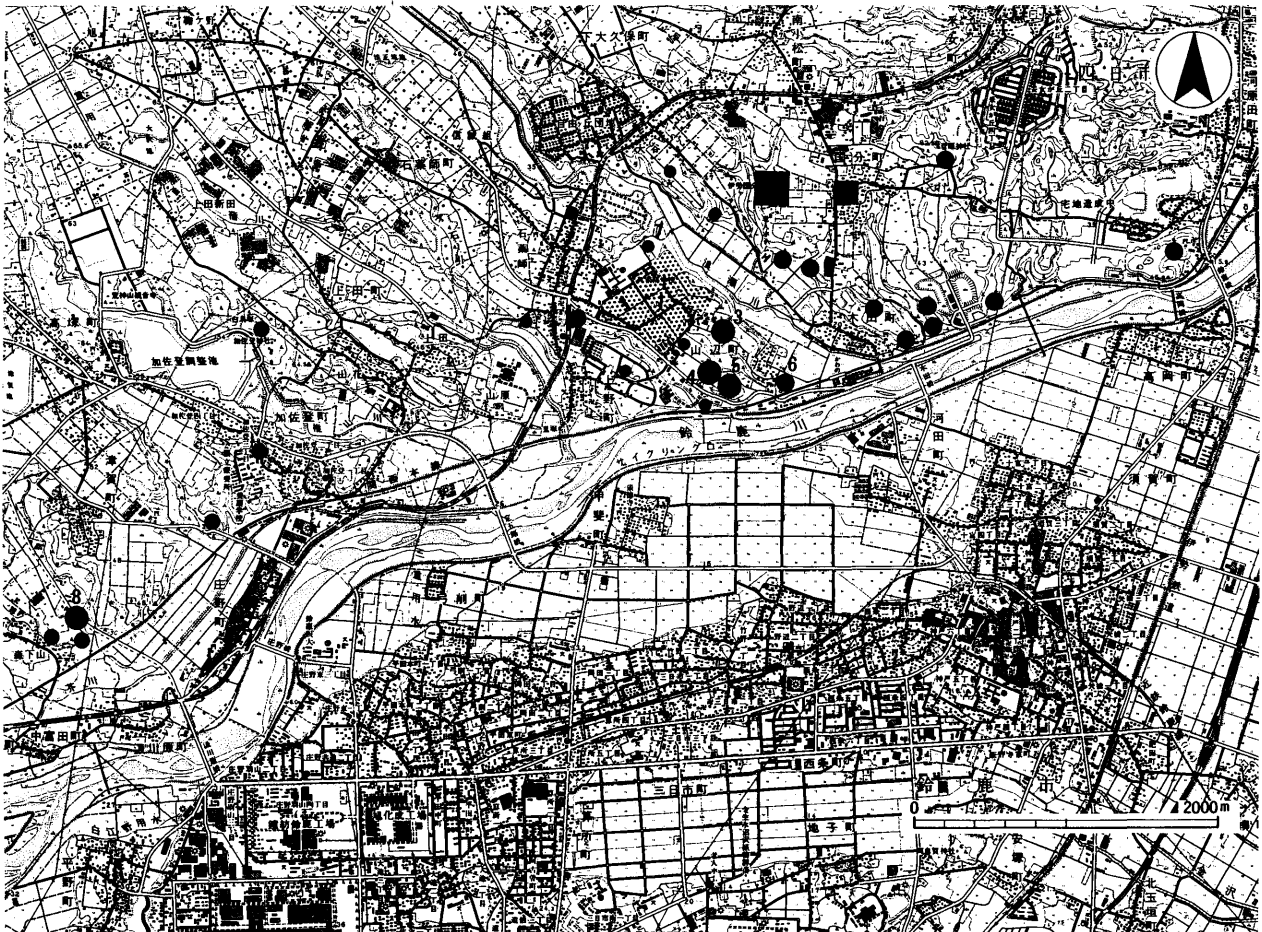
2 調査の経過

発掘調査は、平成13年7月9日～11日に重機による表土掘削及び攪乱部分の掘削を行った。7月11日には平行して人力掘削・清掃作業を行い、写真撮影を行った。12日には平板による実測作業を行い、調査を終了した。

3 文化財保護法にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）にかかる諸通知は、以下により、県教育長あてに行っている。

- ・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項
平成13年4月5日付け消第199号
- ・法第58条の2第1項
平成13年7月10日付け教埋第128号



第1図 遺跡位置図（1：50,000 国土地理院「鈴鹿」1：25,000より）

II 位置と環境

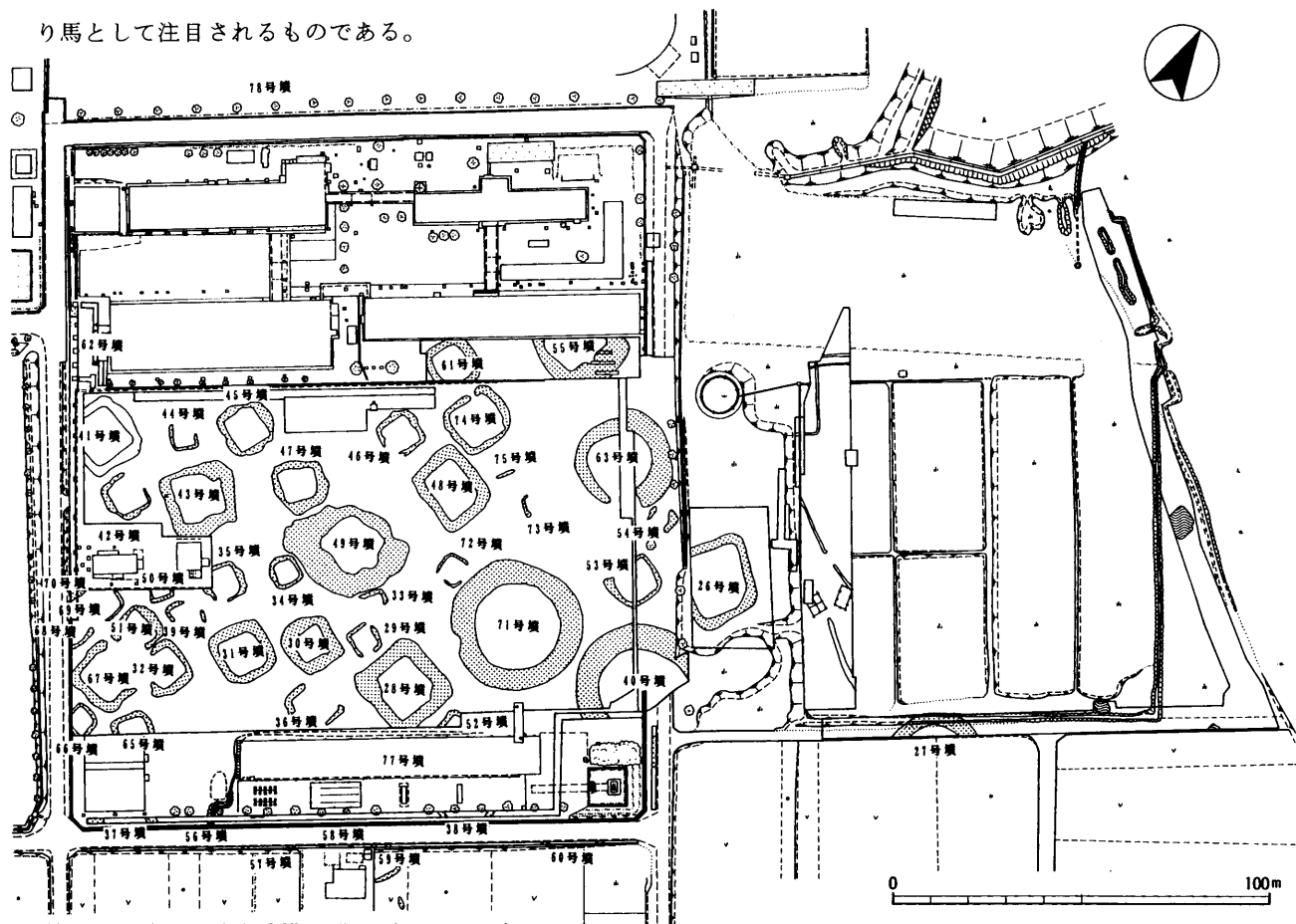
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡は、三重県鈴鹿市石薬師町字寺東に所在する遺跡である。鈴鹿市は三重県の中央部よりやや北側に位置し、西は鈴鹿山脈、東は伊勢湾を望む。市の中央を流れる鈴鹿川は、鈴鹿山脈に源を發し、安楽川などと合流しながら、伊勢湾へと注ぎ込んでいる。当遺跡はこの鈴鹿川左岸の中位段丘上に位置している。

当遺跡は平成5年度以降消防学校建設等に伴い、三重県埋蔵文化財センターや鈴鹿市教育委員会によって13次の発掘調査が行われている。遺跡周辺は第2次大戦中に軍事施設が建設されたために、古墳の墳丘部は削平されているが、現在までに60基を超える数の古墳が検出され、方墳を主体とした古墳群であることが明らかになっている。古墳周溝からは多くの多様な遺物が見つかっており、筒形器台や子持甕などの特殊な須恵器や、人物・動物・家形などの形象埴輪が出土している。特に63号墳から出土した馬形埴輪は、全国的にも珍しい頭部の表現が特異な飾り馬として注目されるものである。

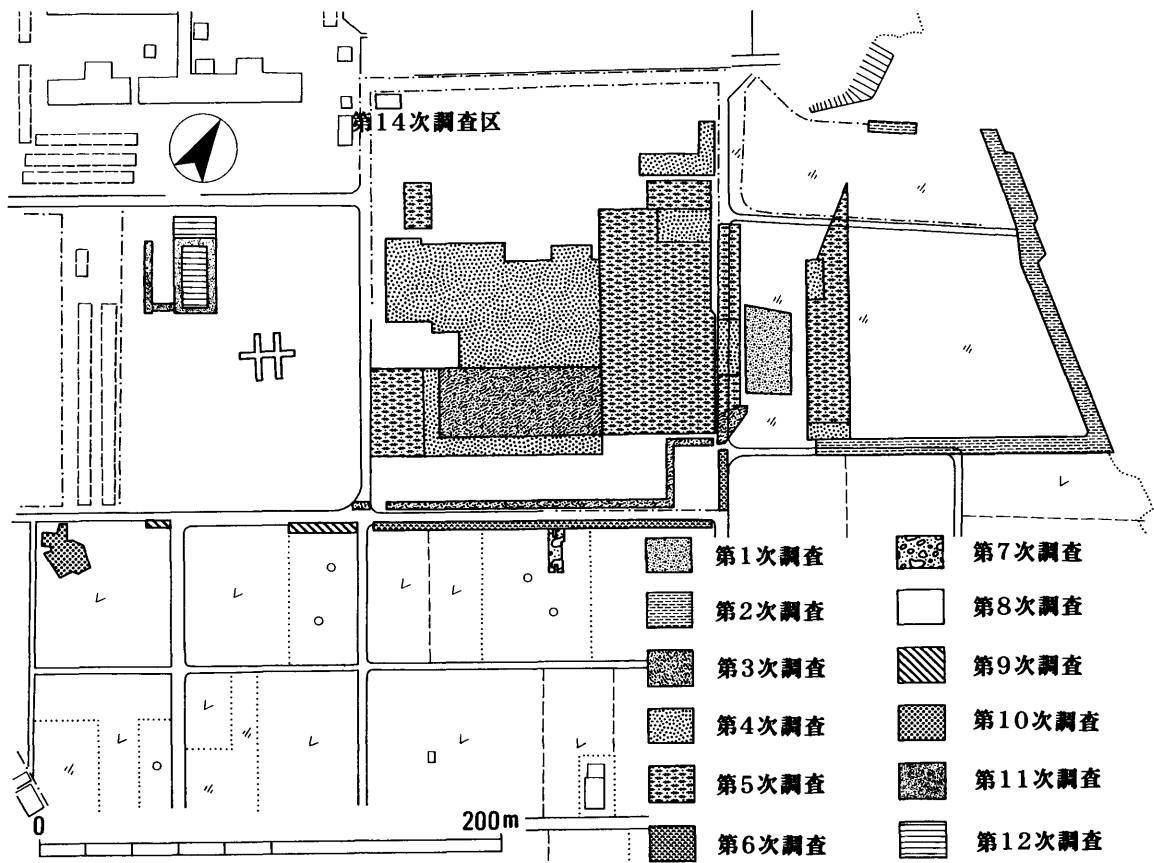
鈴鹿川流域は、県下でも有数の古墳が密集する地域である。丸山1号墳②や乗鞍山古墳⑦など全長40mを越える前方後円墳や、丸山古墳群②・中山古墳群③・南山古墳群④・口山古墳群⑤・山辺古墳群⑥など、10m前後の古墳からなる古墳群が存在する。発掘調査調査例では、鈴鹿市津賀町に所在する津賀古墳群⑧で、墳丘の残っていた2号墳の他に5基の方墳と1基の円墳が検出され、石薬師東古墳群と同様、方墳を主体とした古墳群であることがわかっている。

註

- (1) 服部芳人、船越重信ほか『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2000
角生淳子『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第11次・第12次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2000
- (2) 城吉基、新名強『北蟻越遺跡（第1次）津賀2号墳』三重県埋蔵文化財センター、2000
水谷豊『北蟻越遺跡（第2次）・津賀古墳群発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2000



第2図 消防学校内遺構配置図（1：2,000）



第3図 調査区位置図 (1 : 3,000)

III 調査の成果

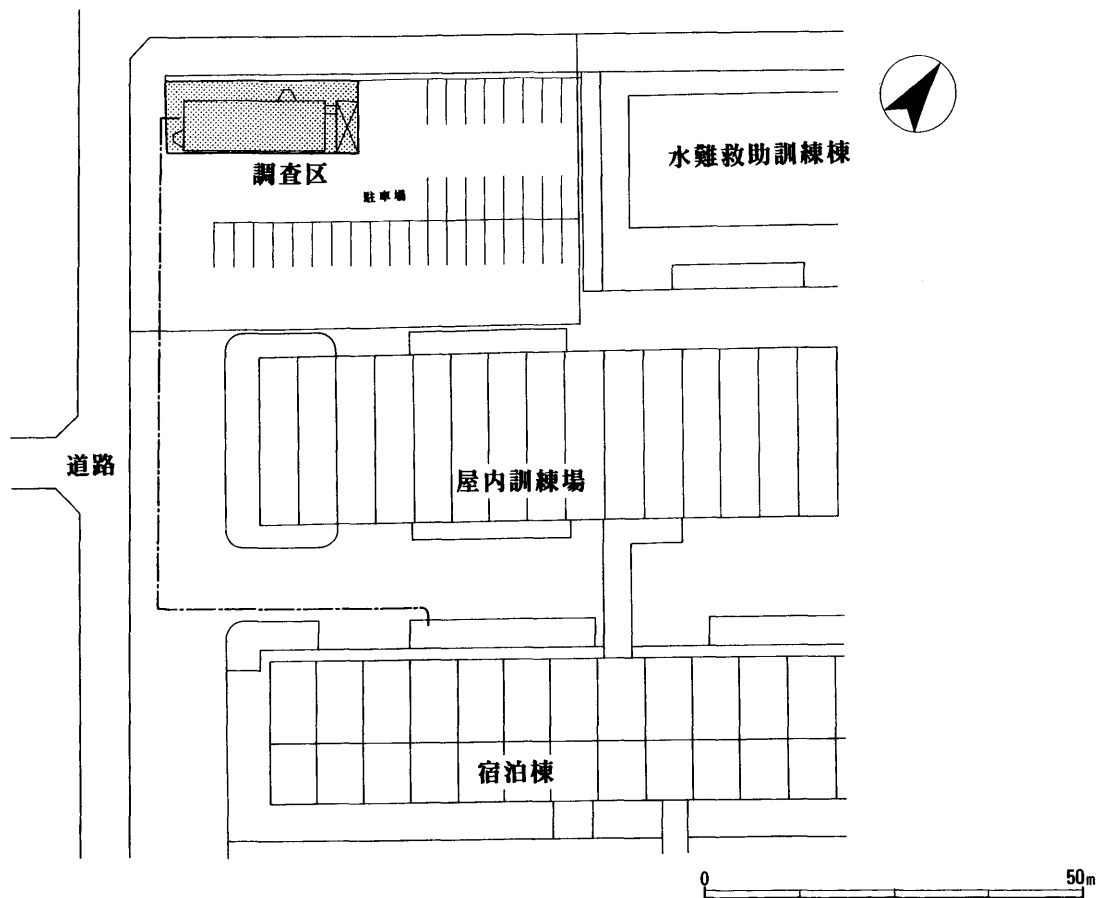
調査区は、消防学校内の西端にあたり、現況は駐車場である。周辺では、旧管理教育棟の西側の給水館設置およびL形擁壁設置に伴う立会調査で62号墳の周溝1条、石薬師東高等学校のグラウンド整備事業に伴う試掘調査で周溝1条が確認され、須恵器片・埴輪片が出土している。

調査区は厚さ5cm程度のアスファルトの下に厚さ10cm程度の礫が敷かれ、その下が過去の調査の検出面である明褐色の粘質土となる。検出面は標高約42.0mである。中央から東部にかけて礫・コンクリートが多量に捨てられており、その部分については0.7m程重機掘削を行い、コンクリートの建物基礎・配水管の上部を確認した。一部で1.0m程度掘り下げたが状況は変わらず、過去の調査結果の古墳周溝は平均0.3m程度で、深いものでも0.6m程度であることから、下には遺構は残存していないと判断した。結果、近代以降の瓦礫・コンクリートの捨て穴などの他には、遺構・遺物とも確認されなかった。

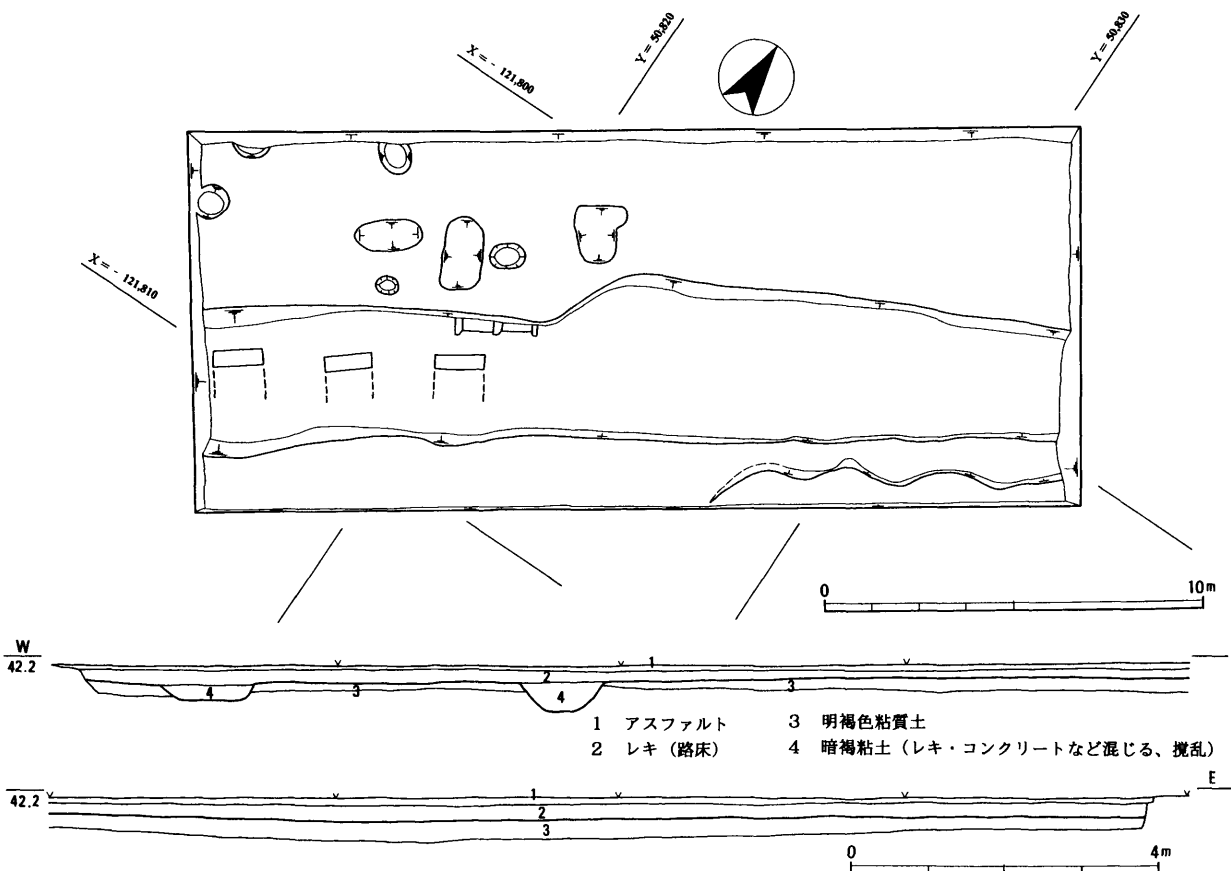
IV 結 語

今回の調査では、遺構・遺物とも確認できなかった。調査区は過去に行われた調査の最も北西にあたるため、本来遺構がなかったのか、後世の削平により遺構が残存しないのか推察も難しい状況である。ただ、今回の調査区は過去の調査区よりもやや高いところに位置することから、古墳の周溝が削平されている可能性が高い。

今回見つかった建物の基礎については、当地に戦中に駐在していた旧帝国陸軍の第一気象連隊に関わる可能性が考えられる。しかし、取り壊しの際かその後の整地により人頭大の石やコンクリート片が多数埋められており、完掘することはできなかった。周辺に見られる土坑も建物に伴うものもあるとは考えられるが、コンクリート片の他、軍手・靴下などが出土しており、より新しい攪乱の可能性が考えられる。また今回の発掘調査では過去の調査で見つかった陸軍気象連隊に伴うものと考えられるような食器類や瓦は出土しなかった。



第4図 調査区位置図 (1 : 1,000)



第5図 調査区平面図 (1 : 200) 土層断面図 (1 : 100)



調査区全景（東から）



近代以降の建物基礎（西から）

報告書抄録

ふりがな	いしやくしひがしがしこふんぐん・いしやくしひがしいせき(だい14じ)はっくつちようさほうこく							
書名	石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第14次)発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	234							
編集者名	水谷 豊							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596(52)1732							
発行年月日	2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしやくしひがし 石薬師東古墳群 石薬師東遺跡	すざかししいしやくしちようあざ 鈴鹿市石薬師町字 てらひがし 寺東	24207	727	34度 54分 10秒	136度 33分 30秒	平成13年 7月9日 ～ 7月12日	230m ²	平成13年度中勢防災 拠点自家発電機施設 建設工事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
石薬師東古墳群 石薬師東遺跡	古墳 集落跡	古墳時代 奈良時代 昭和時代	建物基礎	なし		近代以降の建物基礎跡		

平成14(2002)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年12月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告 234

石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第14次)発掘調査報告

2002年3月発行

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 オリエンタル印刷株式会社
